1 放射線被害の歴史から未来への教訓を ――序にかえて―― 9

2 アメリカの原爆開発と放射線被曝問題 17
全米放射線防護委員会の誕生 18
マンハッタン計画の放射線科学者 21
戦前の被曝基準と放射線被害 25

3 国際放射線防護委員会の誕生と許容線量の哲学 31
ICRPの生みの親 31
許容線量の誕生 35
アメリカの核開発と許容線量 41
ICRP一九五〇年勧告 43

4 放射線による遺伝的影響への不安 49
原爆傷害調査委員会（ABCC）の設立 51
ABCCによる遺伝的影響研究 56
倍加線量と公衆の許容線量 58

5 原子力発電の推進とビキニの死の灰の影響

原子力発電でのアメリカの巻き返し　[illegible]
ビキニの死の灰の影響　[illegible]
BEAR委員会の登場　[illegible]
自然線量の引き下げ　[illegible]
ICRP一九九八年勧告　[illegible]
国連科学委員会　[illegible]

6 放射線によるガン・白血病の危険性をめぐって　[illegible]

微量放射線の危険性への不安の広がり　[illegible]
死の灰によるミルクの汚染　[illegible]
ガン・白血病の　しきい線量　[illegible]
広島・長崎での放射線障害の過小評価　[illegible]

7 核実験反対運動の高まりとリスクーベネフィット論

核実験反対運動の高まり　[illegible]
リスクーベネフィット論の誕生　[illegible]
一九六　年の連邦審議会報告とBEAR報告　[illegible]
ICRP一九六五年勧告　[illegible]

8 反原発運動の高まりと経済性優先のリスク論の〝進化〟

反原発運動の高揚 125
科学者による許容線量批判の高まり 128
原発推進策の行きづまり 132
放射線被曝の金勘定とコストーベネフィット論 136
BEIR－1報告 140
ICRPによるコストーベネフィット論の導入 142
生命の金勘定 146
原子力産業は他産業よりも安全 150
ICRP・九七七年勧告 152

9 広島・長崎の原爆線量見直しの秘密 161

原爆線量見直しの真の発端 163
マンキューソによるハンフォード核施設労働者の調査 166
絶対的とされたT65D線量の再検討へ 168
軍事機密漏らしの高等戦術 173
BEIR－3報告をめぐる争い 176
日米合同ワークショップによるDS86の確定 179

10 チェルノブイリ事故とICRP新勧告 183

ICRP勧告改訂の背景 184

新鮮告はいかなるのは出現 [illegible]
チェルノブイリ事故と一般人の被曝限度 [illegible]
新鮮告とりまとめまでの経過 [illegible]
アメリカの放射線防護委員会と原子力産業の対応 [illegible]
国連科学委員会報告 [illegible]
BEIR-5報告 [illegible]
線量大幅引き下げのカラクリ [illegible]
新鮮告の最大のまやかし [illegible]

11 被曝の被害の歴史から学ぶべき教訓は何か

時代の変化とともに広がる被曝の被害 [illegible]
防護基準による被害への対応の歴史 [illegible]
現在の被曝問題の特徴 [illegible]
日本における被曝問題の最近の特徴 [illegible]
食品の放射能汚染 [illegible]

12 おわりに [illegible]

増補　フクシマと放射線被曝　267
1　フクシマ事故の特徴と労働者・住民の大量被曝　268
2　一〇〇ミリシーベルト以下の被曝も危険　277
3　フクシマの汚染・被曝対策とICRP　289
4　放射線被曝との闘いから脱原発へ　299
5　フクシマが示すもの　306
旧版　あとがきにかえて　311
増補版　あとがき　315
文献　i